

卒前臨床実習における「基本的な産婦人科技能」：Delphi法による医学教育学・産婦人科学専門家の
意見の集約

“Basic obstetrics and gynecology skills” in undergraduate clinical training: Summarization of opinions from medical education and obstetrics and gynecology experts using the Delphi method

東京医科大学医学教育学分野
講師 野平 知良

研究期間

令和4年4月1日～令和5年12月31日

研究の概要

【目的】 国内外の産婦人科臨床実習における診察手技教育の現状を調査し、卒前教育における「臨床実習中に経験すべき基本的な産婦人科技能」の内容に関して合意形成された専門家の意見を確立すること。

【方法】 1) 産婦人科専門医かつ医学教育専門家／医学教育修士・博士の条件を満たすコア・メンバーで Delphi 事務局を結成し、事務局による Delphi 法メンバー（20名）の選定を行った。

2) 国内外の実態調査アンケート結果および日本産科婦人科会の研修目標項目より診察手技項目を網羅し、「臨床実習で学生が経験すべき産婦人科診察手技」を選択するアンケートを作成した。アンケートは Delphi メンバーによる modified Delphi 法で行い、最終的にメンバー全員に合意を確認して合意項目とした。

3) 合意項目に対する患者側の認識について、産婦人科受診患者を対象とするアンケートを実施し、その結果から各項目の実施可能性を5段階（容易に実施可能=1～実施困難=5）でランクづけした。

【成績】 1) 海外アンケートの結果 12施設（6カ国、3地域）より解答を得た。東アジアの2カ国が教育ガイドラインに準じたカリキュラムを作成していた。特定の手技に言及した施設はなかった。

2) 国内の Delphi 法アンケート 最終的に19名の Delphi メンバーが解答を完遂した（完答率95%）。8回の Delphi アンケートの結果、中央値

6-7のみであった項目を「経験すべき手技として強く推す」（グループA）、グループA以外で全ての中央値が4以上の項目を「経験すべき手技として推す」（グループB）、中央値4以上と4未満が混在している項目を「経験させた方がよい手技」（グループC）、中央値が全て4未満であった項目を「必ずしも経験させる必要はない手技」と分類した（表1）

	基本手技項目	
A	妊娠検査薬による妊娠判定	1
	子宮収縮などの産科触診	2
	Leopold触診法	2
	Doppler法による胎児心音聴取 新生児蘇生（講習会参加含む）	1 -
B	妊婦計測（子宮底長・腹囲の計測）	1
	妊娠初期の経腹超音波断層法	1
	妊娠中・後期の経腹超音波断層法	1
	産褥期の経腹超音波断層法	1
	その他妊娠に関連した経腹超音波断層法（多胎の診断など）	2
	BTB試験紙による破水の診断	-
C	原始反射チェック	-
	Bishopスコア	-
	CTGの装着	1
	視診・陰鏡診による破水の診断（破水検査キットによる破水の診断）	3 2
	子宮復古の触診	1
	ABR	-
	経皮黄疸スクリーニング	-
検査キットによる排卵日の推定	1	